

岐阜県図書館における「道の駅」活性化事業

鈴木 綾佳
岐阜県図書館

はじめに

岐阜県図書館は県立の図書館として、全県域・全県民を対象にサービスを行う必要がある。図書館以外で岐阜県全域に広がるものを考えたときに、「道の駅」が思い浮かんだ。

岐阜県には「道の駅」が56駅ある。これは北海道について2番目に多い数である¹（2020年7月現在）。

岐阜県公共図書館協議会加盟の図書館は本館のみで36館ある。「道の駅」と各市町村図書館との連携を岐阜県図書館がサポートすることにより、「道の駅」の活性化とともに各市町村図書館の「ビジネス支援」の支援にもつながるのではないかと考え、第20回ビジネスライブラリアン講習会でのワークショップに企画案を提出した。

修了レポートでは対象とする市を郡上市に絞り、モデル事業として実施後、県内全域で活用できるよう再考した。

事業の背景と現状

岐阜県は制度の創設当時から「道の駅」と深い関係がある。

1991年10月から翌年4月にかけて、岐阜県を含む3県で「道の駅」の実験が実施された。その後、1993年4月に第1号として103か所が登録された。103か所のうち、岐阜県の第1回登録駅は5駅である²。そして先述のとおり、現在では56駅まで数を増やした。

国土交通省は「道の駅」の中でも「地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められる」ものを「全国モデル道の駅」として6駅選定しているが、数の多さにもかかわらず、岐阜県内の「道の駅」は選定されていない。

利用者側からの現状としては、岐阜県観光国際局観光企画課作成の「令和元年度岐阜県観光入込客統計調査」から読み解く。「観光地分類別観光入込客数」では「道の駅等」が25.0%と一番多く、次いで「歴史・文化」が24.5%となっている。また、「利用交通機関別観光入込客数」では自家用車が全体の82.9%と最も多く、公共交通機関の割合は低い³。

最後に岐阜県と図書館の現状について述べる。

岐阜県では「清流の国ぎふ」創生総合戦略(2019～2023年度)で政策の方向性として3点挙げている。1つ目に「清流の国ぎふ」を支える人づくり、2つ目に健やかで安らかな地域づくり、3つ目に地域にあふれる魅力と活力づくりである⁴。また、岐阜県図書館ではミッションステートメントとして「岐阜のひとづくり、ものづくり、まちづくりを支えます」を掲げている。

事業を実施するための課題

課題について以下の3点をあげる。

(1) 魅力ある「道の駅」づくり

具体的には「じゃらん道の駅グランプリ」トップ10への選出など、利用者の満足度が高い「道の駅」づくりをめざし、最終的には「全国モデル道の駅」に選出される、地域活性化の拠点となる「道の駅」づくりをめざす。

(2) 集客に向けての工夫

「道の駅」にはその土地の特産品やおみやげの販売所、地元住民が作った野菜や花、お弁当などが売られる直売所（朝市）、郷土料理などもメニューに加わった喫茶店・食事処で構成されていることが多い。

地域住民にとっては日常的に使われる経済活動・社会活動の場であり、観光客にとっては特産品を購入したり郷土料理を楽しむことのできる非日常の場である。コロナ禍でイベントの中止が相次ぎ、公共交通機関での移動も自粛傾向にある今、車で行くことを前提として作られた「道の駅」の集客を工夫することで、多くの地域住民や観光客が利用する場をめざす。

(3) 若者も高齢者も働ける場所づくり

岐阜県は職業上の理由により県外転出する20代が多い⁵。現在でも問題となっている高齢化社会はますます進み、高齢者の生きがいづくりや収入の確保も必要となる。道の駅が若者や高齢者にとっての収入確保の場として機能することをめざす。

課題を解決する上での岐阜県図書館の強みは、豊富な郷土資料、地図資料を所蔵していることである。特に地図資料については関連図書もあわせて15万点を所蔵している。デジタルコレクションとして古地図は2,898点、郷土資料は129タイトルをデジタル化しており（2020年3月末現在）、現在も増加中である。

郷土に関する新聞は明治時代からのものを所蔵しており、旧市町村ごとにファイル分けされたパンフレット類の提供も可能である。

また、県立図書館と各市町村図書館とのつながりを生かし、各自治体との連携も可能である。2020年度、岐阜県図書館では移動図書館事業として郡上市図書館本館とはちまん分館をめぐる、岐阜県図書館の利用者登録・貸出証の発行や電子書籍サービスの利用案内、バリアフリー機器のデモを行った。はちまん分館と郡上市役所は別施設ではあるが、同敷地内にあり、普段から行き来が活発なようで、移動図書館事業でも多数の郡上市職員の利用者登録があった。

市立図書館と市役所のつながり、市立図書館と岐阜県図書館のつながりを生かして、道の駅の活性化をめざす。

事業の概要・目的・効果

「道の駅」の登録要件には「休憩機能」「情報提供機能」「地域連携機能」の3つの機能が必要である⁶。このうち「情報発信機能」を充実させるための地域の特色を活かした情報発信支援、そして「地域の連携機能」を充実させるための販売支援の2点を行い、岐阜県図書館のビジネス支援とする。

事業の目的は「道の駅」の活性化である。このことにより、3つの効果が期待される。1つ目に観光人口・観光消費額の増加、2つ目に地域における収入の増加と地域住民の経済活動・社会活動の拠点づくり、3つ目に図書館ミッションステートメント「ひとつづくり、ものづくり、まちづくり」の達成である。

事業の対象者

活性化によって直接効果を得られる対象者として、「道の駅」を管理・運営している地元企業や管理運営団体、また「道の駅」でテナントを運営している業者を想定した。

間接的な対象者としては、地域の情報を学び、情報発信を行うことで将来の地域活性化を担う地元の若者や学生、地域おこし協力隊を想定した。

事業の具体策とスケジュール

事業は3年計画で行う。

地域の特色を活かした情報発信支援の具体策として、以下4点を行い、地域の情報入手の支援を行う。これらは非来館でも対応可能な支援である。

1. デジタルアーカイブ（地図・写真）の提供
2. 郷土資料、地図資料の提供
3. 「道の駅」特産品に関する資料の提供
4. レファレンスサービス

また、以下2点を集客型の事業として行う。

5. 郡上市図書館でのデータベース利用方法説明会
6. 地域を学ぶイベント「おとなの学校」×「楽習会」

データベース利用方法説明会は、野菜の栽培方法、食べ方、野草や自生した植物の販売方法などの情報が入手でき、朝市・直売所での販売に役立つ「ルール電子図書館」について説明を行う。実施方法は、今年度行った出前図書館を応用した形式で年に数回、3年間実施する。反応がよければ郡上市図書館で導入していただくのが一番よいが、岐阜県図書館に「ルール電子図書館」というデータベースがあること、農業のあらゆることに関して調べることが可能ということを知ってもらえれば、レファレンスサービスの利用にも繋がることも期待できる。

地域を学ぶイベントは、郡上市図書館の既存事業である「おとなの学校」と岐阜県図書館

の「おとなのための岐阜学講座」とのコラボ企画で実施する。「おとなの学校」は「地域の人が、地域の人に、地域のことを伝える」をテーマとした市民協働的な事業⁷であり、「おとなのための岐阜学講座」は岐阜を研究する大学教授等の専門家を講師とした、岐阜について学び岐阜を知るための講座である。

この事業は年 1 回、郡上市にまつわる 1 つのテーマについて市民からの視点、大学教授からの視点で語る形式で 3 年間実施する。岐阜県図書館、郡上市図書館、地元高校を会場に 1 回ずつ開催し、別会場でも、オンライン配信で見られるという形をとることで、その場に行けなくても継続して情報を収集することが可能である。それぞれの会場には関連資料を展示し、講座内容と図書館資料を関連させる。郡上市図書館、地元高校での参加者は地域について深く知ることができ、岐阜県図書館での参加者は郡上市を知ること、郡上市への訪問意欲を高めることを狙いとする。

以上の情報発信支援によって得られた情報を、次は地域と連携した販売支援に生かす。具体的には 2 年目以降に以下 3 点を行う。

1. 図書館司書による販売 POP 作り講座
2. 高校生による「道の駅」特産品・特産品関連本 POP 作り
3. 道の駅と図書館をめぐるMAP作り、スタンプラリー

POP 作り講座と高校生による「道の駅」特産品・特産品関連本 POP 作りは連動して行う。内容については図書館資料を提供し、書き方、表現については司書が説明する。自身が POP 作り研修会を担当したこともあり、出前講座として高校や図書館等で行う。高校にも司書がおり、当館の既存事業である「おすすめの 1 冊コンクール」に POP 部門・イラスト POP 部門があることや、例年、国語や美術の授業、美術部の活動、図書委員会の活動として高校からの応募があることから、高校生にもなじみやすい事業ではないかと考える。

できあがったPOPは「道の駅」で展示を行い、特産品の販売促進を狙う。また、岐阜県図書館、郡上市図書館でも道の駅とのコラボコーナーを作成し、特産品関連本の展示や道の駅の紹介を行うことで図書の利用、道の駅への訪問意欲に繋げる。

特産品関連本は岐阜県図書館で「野菜」「果物」「花」などといったテーマごとにセットを作り高校に貸出を行い、POP作成後には郡上市図書館へ本を貸出、展示を行う。「道の駅」で本と特産品の紹介を行い、特産品の売上につなげ、図書館に本があることで「道の駅」の利用者が郡上市図書館へ足を向けるきっかけにする。

道の駅と図書館をめぐるMAP作り、スタンプラリーは、岐阜県図書館が作成した「地図からさがす岐阜絵葉書デジタルライブラリー」と例年岐阜県公共図書館協議会が実施する「スタンプラリー」を応用して行う。

「地図からさがす岐阜絵葉書デジタルライブラリー」ではかつて岐阜県図書館で行っていた事業で、googlemap と Picasa ウェブアルバムを用いて、実際の地図と当館所蔵資料の

絵葉書のデジタル化資料を結び付けたものである。この方法を応用して、道の駅と図書館をめぐる MAP では図書館と「道の駅」の場所を示し、情報発信支援で得た情報や図書館のデジタル資料を組み込み、観光客が訪問前にインターネットで閲覧し、情報を取得できるものを作成する。郡上市図書館には分館・分室をあわせて7つの館があり、道の駅は8か所ある。その場所を一目で理解することができれば、ついでに寄ってみようという気が起こるのではないだろうか。

また MAP は「道の駅」でもデジタルサイネージなどで映し出し、次の「道の駅」や図書館への訪問意欲を刺激するものとする。

スタンプラリーは MAP を紙媒体にしたものを再編集し、図書館と「道の駅」をめぐるスタンプを集めるとグッズがもらえる仕組みとする。「茶菓」、「スイーツ」、「肉」、「温泉」などさまざまなテーマで作成し、スタンプラリーの台紙には「道の駅」の基本情報だけでなく、おすすめの特産品もあわせて明記する。

どちらも「岐阜県図書館デジタルコレクション」を利用し、古い郷土資料や古地図の利活用につなげる。作成は地域おこし協力隊や中部学院大学の学生を中心に、地域の高校生と行う。

事業の連携先

連携先として、まずは「道の駅」の管理者・設置者との連携が必須である。

「道の駅」の設置者は「市町村、または市町村に代わり得る公的な団体（都道府県、地方公共団体が三分の一以上を出資する法人または市町村が推薦する公益法人）等」⁸であり、郡上市内の「道の駅」も市が出資する第三セクターなどが管理運営を行っている⁹。市役所との連携を図ることは必須である。

また、県の組織では、「道の駅」の管轄である道路維持課、朝市や特産品に関しては農産物流通課、県産品流通支援課と連携し、「道の駅」の直接的な支援を行う。農産物流通課は、2020年度、コロナ禍において「魅力ある直売所づくり研修会」をオンラインで開催した。農産物流通課と図書館が連携することで図書館の情報提供サービスを直売所・朝市関係者にもアピールできる。

その他、岐阜大学の教授と連携し、既存事業である「おとなのための岐阜学講座」を活用すること、中部学院大学・中部学院大学短期大学部の学生と連携し、大学と道の駅との連携協定、当館との相互協力協定を生かすこと、郡上市内の県立高校2校と連携し、ふるさと教育の一環として活用してもらうこと、地域おこし協力隊にはそれぞれ大学、県内高校との連携事業に協力者として入ってもらうことを考えた。

郡上市には高校が2校あるが、郡上高校は総合農業学科群（園芸科学科、食品科学科、森林環境科学科）があり、農業や林業、食品加工を学ぶ科目がある。郡上北高校は特許庁主催の全国地域ブランド総選挙で「奥美濃カレーで町おこし隊」として出場、他にも教育と探求

社主催のクエストカップ、マイプロジェクト中部 summit に参加など、地域活性化に意欲的な高校である。

現在郡上市には、独自制度による人材活用もあわせて9名の地域おこし協力隊がおり、これは県内でも一番多い。道の駅が8駅あることから、1人1駅担当も可能である。

参考となる先進事例

鳥取県立図書館の「農業ミニ講座」、小山市立中央図書館の「農業支援サービス事業」、紫波町図書館の「産直連携事業」での図書館と産直所をつなぐ展示、本と産直所をつなぐPOPなどを参考とした。図書館以外での先進事例としては、岐阜国道事務所の取り組みも参考にした。¹⁰

¹国土交通省 HP 道の駅案内『「道の駅」一覧』

<https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/index.html>

²国土交通省 HP 道の駅案内『沿革』

<https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/history.html>

³『令和元年岐阜県観光入込客統計調査』2020.12,岐阜県観光国際局観光企画課

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/223251.pdf>

⁴『「清流の国ぎふ」創生総合戦略(2019～2023年度)本編』2019.3,岐阜県

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/144480.pdf>

⁵『岐阜県の人口減少の現状』2020.7,岐阜県環境生活部統計課

<https://www.pref.gifu.lg.jp/uploaded/attachment/200311.pdf>

⁶国土交通省 HP 道の駅案内『概要』

<https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/outline.html>

⁷『図書館実践事例集 ～人・まち・社会を育む情報拠点を目指して～』2014.3,文部科学省

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/fieldfile/2014/04/11/1346622_005.pdf

⁸国土交通省 HP 道の駅案内『概要』

<https://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/outline.html>

⁹「郡上市公共施設適正配置計画」 VIII. 観光・保養施設

<https://www.city.gujo.gifu.jp/admin/docs/02-08kankou.pdf>

¹⁰平成24年度国土交通省 国土技術研究会 「道の駅」情報提供施設の新たな取り組み

<https://www.mlit.go.jp/chosahokoku/giken/program/kadai/pdf/jusyo/H24/ippan2-02.pdf>